

令和2年第1回当別町議会定例会 代表質問 答弁書

3月6日

質問者 会派清新 山田 明 議員

【町長答弁】

会派「清新」山田議員の代表質問にお答えいたします。

はじめに、J R 札沼線の新駅設置とその周辺のまちづくりについてお答えします。

執行方針でもお示ししております通り、現在、株式会社ロイズコンフェクトと連携し、J R 北海道に対して、町内当別太地区に札沼線の駅を新設することについて、要望いたしました。

これまでの進捗状況についてですが、本年1月17日に株式会社ロイズコンフェクトと当別町の連名でJ R 北海道に対して要望書を提出し、今後、勉強会を重ね、新駅設置に関する協議を進めていくことになりました。

1月23日には、東京において、総務副大臣である長谷川岳参議院議員に、本件は地方創生を進める上で極めて重要案件であるとの認識のもと、関係者を集めた意見交換の場を設けていただきました。

副大臣と私、J R 北海道副社長、国交省鉄道局次長、北海道地域振興監、石狩振興局長が一堂に会し、本件が、J R 北海道再生のモデル事業になるものとして、今後、スピード感をもって協議を重ねていくことを確認いたしました。

その後、2月21日に、町、ロイズとJ R 北海道との第1回目の勉強会を開催し、その場には、北海道運輸局、道庁交通政策局、石狩振興局の関係職員も出席いただき、「札沼線新駅設置に関する検討会議」として協議がスタートしております。

検討会議は、今後、月1回程度のペースで開催していく予定であり、その進捗状況を見て、各機関等の代表者による上部会議を開催する運びとなっております。

町の負担となるインフラ整備の見通しについてですが、検討会議もまだ1回目を開催したばかりであり、詳細な整備すべき事項は明確にはなっておりませんが、町が負担すべき整備も当然、生ずるもの認識しております。

本件は、町の活性化、大きな経済効果、そして交流・定住人口の増加につながる極めて重要な案件であると考えており、協議の進捗などについての情報を共有しながら、議員の皆様と一丸となって本件を進めてまいりたく存じます。

次に、役場庁舎の更新についてですが、当別小学校跡地の利用につきましては、これまでの検討作業において、新庁舎を考える上での候補地のひとつと捉えており、比較検討の対象となると考えております。

また、役場庁舎の施設を検討するときに、複合化がひとつの重要なテーマとなっており、費用負担の大小のみならず、災害に強く、防災拠点としての機能を発揮できること、もうひとつは、人が集える空間を創ることなど、総合的な判断が必要となりますので、新庁舎構想調査事業において、具体的な試算や検討を進めてまいります。

次に、「当別町150年」についてのご質問ですが、確かにこれまで記念事業の概要を各団体や住民の皆様にお伝えすることができておらず、150年に対する盛り上がりはまだ醸成されていないことは私も感じているところです。

ようやく、2月26日に開催された150年記念事業実行委員会において、記念イベントの詳細を決定しましたので、これから商店街などにポスター等掲示するなど、町民の意識の底上げを図ってまいります。

なお、記念事業につきましては、先般の町政執行方針で一部述べさせていただきましたが、その他にも当別の歴史をテーマとした「歴史検定クイズ」や「歴史パネル展」といったイベントを行うほか、「グルメ選手権」、当別町ゆかりの歌手「Rihwa（リファ）」さんや、道の駅アンバサダーの「NORD（ノール）」さんのミニコンサート、さらには「姉妹都市交流文化祭」、「伊達サミット」の開催等も計画しております。

今後はこうしたイベントを積極的にPRして、全町あげて当別町の150年をお祝いする機運を高めてまいりたいと考えております。

以上、会派「清新」山田議員の代表質問に対する答弁といたします。

【教育長答弁】

会派「清新」山田議員の代表質問にお答えいたします。

はじめに、「当別みらい学について」のご質問ですが、平成26年度からの研究を始めた当初は、一週間の時間割の中に組み込んで、一教科として実施していくことを想定しておりましたが、今回の学習指導要領改定による、英語教育の時数増、プログラミング教育の導入などにより、新たな教科として時間割に組み込んだでの実施が困難な状況になりました。

そこで今年度は、議員も述べておられる、「三本の柱」に基づき、社会科や生

活科などの教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動に位置付けて実施してまいりました。

今後は、9年間の系統性を重視し、充実したカリキュラムとなるよう、さらなる内容の精選と指導の工夫を図ってまいります。

次に、「教職員の働き方改善に向けた取組みについて」のご質問ですが、外国語やプログラミング教育が、令和2年度から新たに導入されるということで、当別町教育委員会では、平成30年、平成31年（令和元年）と2年をかけて、時間割編成の工夫やカリキュラムの見直し、教員研修、「一貫教育推進講師（英語）」や「ALT」の派遣、指定事業を活用した授業改善に取り組んできました。

このように教育委員会のサポートは、しっかりしてきましたので、子ども達の教科指導の充実は、図れるものと考えております。

次に、「幼保小接続プログラムの実行について」のご質問ですが、幼児教育の学びの中心は、議員ご指摘のとおり、遊びを中心とした教育です。その中に自然の中でのプログラムも位置づけられております。

接続プログラムの意義は、幼児教育での遊びを通して生まれる「学びの芽生え」を小学校教育での「自覚的な学び」へとスムーズにつなげることにありますので、今まで通り「自然との関わり」を重視するプログラムも取り入れながら、小学校により結びつくプログラムを 実施してまいります。

以上、会派「清新」山田議員の代表質問に対する答弁といたします。